

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」

たまちゃん通信

令和5年5月発行 No. 362

発行：日本のお手玉の会事務局 〒792-0023 愛媛県新居浜市繫本町8番565号

新居浜市市民文化センター別館1階

Mail: honbu@otedama.jp Tel: 0897-47-6148 FAX: 0897-47-6149

シンポジウム「未来のお手玉」余話 その5

多くの人を魅了するお手玉遊び世界への飛翔③ (山本清洋)

～お手玉遊び大会の魅力 その2～

多くの子どもが日常的にお手玉に親しんでいた時代は、誰が一番上手かを競い合っていました。季節にあわせてお手玉がはやり始めると、だれかれとなく遊び場に集まり、競い合いをしていました。そこには競い合うための決まりはありましたが、文章化されたものでなく、それぞれの子どもの中にもありました。競い合いの中で明らかな違反があると、厳しく指摘合っていました。さらに、チームをつくって対戦することはありませんでした。遊びといえども競争ですから競い合いは厳しいものでしたが、一番になれなくても以前より上手くなった者は、みんなが誉めてくれました。上手にゆれない子どもでも遊びたいという気持ち ... (写真：第1回全国お手玉遊び大会の団体戦)

を持っていけば、誰でも仲間に入ることができました。易しくいえば、競い合いにはだれでも参加でき、みんなで審判して、参加した子どもみんなが楽しめるものでした。



古い郷土文化を見直しお手玉遊びへ光が当たり始めた

1980年代以降になると、遊びの世界にはスポーツが台頭して、お手玉遊びは急激に減少し、お手玉を競い合う子どもの姿を見ることができなくなりました。しかし、「古い郷土の文化を見直し、良いものは後世に残そう」のスローガンのもとに活動した「新居浜アメニティ倶楽部」が中心になり、現在の日本のお手玉の会が1992年に発足し、同時に全国大会も開催され、お手玉遊びに光が当たり始めました。

現在の大会は、団体戦と個人戦がありますが、団体で対戦し競い合うのは、1980年代以降の遊びがスポーツ化した社会を反映した結果であるといえます。ただ、「全国お手玉遊び大会」のルールをよくみると完全にスポーツ化しているのではなく、遊び文化の楽しさ、自由な空気、競い合いの結果が遊び世界の中だけのものであるという特性がみられ、今日における伝承遊びのあり方を教えてくれています。

今回は、「なぜ、そうなのか」、「ほかの遊びには見られないお手玉の特性を生かした大会」について述べていきます。(日本のお手玉の会副会長・NPO法人日本こどもの伝承遊び学会会長)